

column

# できることをできるだけ：地域アプローチのはじめ方

人は心のどこかで

誰かの助けになりたいと思っっている

これが私の地域アプローチの持論です。家庭でも、職場でも、地域でも、目の前に困っている人がいたら、声を掛け、手を差し伸べたくありませんか？

現代の社会では、人口減少、高齢社会、少子化、核家族化が進んでいます。地域の伝統行事や清掃活動、またはサークル活動等では参加者の減少も顕著です。だからこそ、地域のたすけになりたいと思う個人や企業の方も多いのではないのでしょうか？

今回はそんな思いのある方へ地域アプローチのはじめ方をお伝えします。

「得意や好きなこと」で地域アプローチをしよう

現代の地域では、趣味や仕事も多様化しています。例えば趣味では、ブレイキンやダブルダッチ等のアーバンスポーツ系や、ヨガやピラティス等もかなり増えてきた印象です。仕事では英語やプログラミング、将棋教室等の習い事、地域イベントの企画やチラシづくり等、個人事業も増えてきています。

それぞれの地域住民が、得意分野や好きなことで地域に「サークルや仕事場」を作り始めている印象があります。私は、これが地域の課題解決のヒントになると思っています。「得意や好きなこと」が住民同士のコミュニケーションを増やし、結果的に地

域の助け合いの環境が良くなっています。まずはあなたの「得意や好きなこと」で地域にアプローチしてみてくださいいかがでしょうか？

地域アプローチのはじめかた

しかし、どんなに自分の得意や好きなことに実力があっても、いきなり地域で実践することは怖いと思います。計画もなく「とりあえず」で実践してしまうと、持続的な活動が難しく、一年未満で辞めてしまうケースを、私もたくさん見てきました。

そこで、これまで地域アプローチをしてきた私が考える「地域で自己実現をする5ステップ」、7アプローチをお伝えします。(図1)にある5ステップのように、段階的に地域アプローチを行うことで、地域にも溶け込みやすく持続的に活動がしやすくなります。

(図1) .地域で自己実現をする『5ステップ』



7アプローチの詳細は以下になります。

1 地域を知る《自分が地域で何がしたいか》を考える

- ①なぜ地域で貢献したいか
- ②これまでの自分の振り返りをする
- ③自分ができることをまとめる
- ④自分は誰のために動きたいか
- ⑤家庭と仕事のバランスはどうか
- ⑥自分の人生計画はできているか
- ⑦自分が地域と持続的に関わるイメージはできているか

2 地域を知る《様々な指標で自分評価を見える化する》

- ①賑わい・生活環境
- ②家族・住生活
- ③地域・コミュニティ
- ④医療・保健環境
- ⑤子育て支援サービス
- ⑥働き方・男女共同参画
- ⑦経済雇用

3 地域と学ぶ《実際に地域の人と関わり、事業に参加する》

- ①知人・友人・住民にヒヤリング
- ②行政窓口で地域情報を収集
- ③地域の団体や行政の意見交換会やイベントに参加
- ④自治会やPTAなど様々な地域コミュニティに参加
- ⑤自分の趣味や特技に関わる地域のサークル活動に参加
- ⑥実際に参加してみて地域の魅力と課題を整理
- ⑦他地域と類似事業の比較





#### 4 地域で実践する《地域の学びを活かして地域をフィールドに実践してみる》

- ①MY事業の実施計画の作成 ②事業のプロジェクトチームを作る ③規模に合った資金計画を作成する ④キックオフ事業の実践 ⑤周知広報活動の実践 ⑥事業の実践 ⑦事後アンケート実施

#### 5 地域で自己実現《振り返りながら持続可能な事業を進める》

- ①MY事業の棚卸の自己評価と、住民や専門家等の評価 ②事業の評価に合わせて短期的な調査や実践を繰り返し調整 ③評価に基づいて資金計画の再検証 ④地域に根付いた「拠点づくり」の検討や実施 ⑤プロジェクトチームの再検証と調整 ⑥MY事業を含む地域の再評価と地域のリブランディング ⑦地域住民・行政・事業の協働を実施して継続

#### ステップ2の「地域を知る」方法について

今回全てを説明するのは難しいため、特に地域との繋がりが重要な(図1)にあるステップ2「地域を知る」を説明します。

ステップ2では「自分なりに地域を調査すること」がメインテーマとなります。まずは自分の住んでいる地域や自分が活動したい地域について(図2)に書き出してください。分野は内閣府地方創生推進事務局の少子化対策地域評価ツールSTEP2「地域の様々な指標の参考例を引用し作成しています。簡易的な例として、私実践している「こどもの居場所NSSBスクール・カフェテリア」を記載して

います。ぜひ自分なりに書き出してみてください。



### 2 (図2).地域を知る

川門が実践するこどもの居場所「NSSBスクール・カフェテリア」調査の例

| 分野         | 川門  |
|------------|---|
| 賑わい・生活環境   | 糸満市場いとまーるがあり、地元の相対売りのお店が20数店舗ある。近くには潮崎シティや糸満市役所、漁港もすぐ近くにある。 |
| 家族・住生活     | 1階が店舗で2階に住居のある家が多い。地元のおじい・おばあも多く3世代で暮らしている家も多い印象。老朽化した家が多い。 |
| 地域・コミュニティ  | 糸満ハーレーや自治会の活動が盛んである。平日に学校に行っていない子どもも、ちらほら見る。子どもの居場所がほとんどない。 |
| 医療・保健環境    | 市内には病院等はあるが、少し距離がある。市内に産婦人科もあるが産科は無い。                       |
| 子育て支援サービス  | 保育園は近隣に数カ所ある。地域の子育て支援拠点は近くに無いが、子育て世代には、まだまだサービスが不十分と考えられる。  |
| 働き方・男女共同参画 | 家から10分程度の場所にあるためストレスはなし。協力者の中にも女性がいたが、女性相談者に対応する際は協力を願う。    |
| 経済雇用       | 産業の中心は卸売業や小売業も多く宿泊業やサービス業が多い。最近はこの企業も人手不足と聞きます。             |

#### 企業をはじめよう、地域アプローチ

今回は、個人で地域アプローチを実践する場合について説明しましたが、企業についても同様の手順で地域アプローチが可能です。企業には「CSR(企業の社会的責任)」として、お客様だけでなく、従業員や地域に対して社会的公正や環境づくりに配慮が求められます。

今回のような地域アプローチで、企業も、まずは地域の実情を把握することから始めても良いかと思えます。企業で地域アプローチをすることは、企業理念の共有やチームビルディングも期待されることから、企業にも地域にもおすすすめの方法です。

#### できることをできるだけ

#### 「たすけあい」の気持ちは伝わる

最後に、地域アプローチを始める方へのメッセージ

無理をします。無理をしないではいけません。無理をしてはダメです。無理をしても、本来誰かを「助ける側」のあなたが、「助けられる側」になるかもしれない。皆さん仕事も忙しくて、家庭でも休養を取らないといけないのは、地域の皆さんが知っています。持続的な活動のためには、バランス良く、できるペースで活動しなければいけません。できることをできるだけ。身近な人を幸せにしていきたい。願わくは、その輪が広がっていきますように。あなたとあなたの周りの人を大切に。「できるだけ」の「たすけあい」の気持ちをもって地域で暮らしていきたい。

### プロフィール

かわかど よしと  
川門 義人氏



糸満市市民活動支援センター  
センター長  
NSSBスクールカフェテリア  
(こどもの居場所) 代表

令和元年 内閣府「沖縄型産業中核人材育成事業」商店街等  
地域プロデューサー人材育成  
プログラム認定  
令和五年 内閣府「沖縄型産業中核人材育成事業」スポーツ  
コンベンションを活用した  
「地域活性化・まちづくり」  
推進人材育成プログラム 認定